

令和5年5月18日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6972

令和5年度病害虫発生予報第2号について

今後発生が予想される水稻、麦類、大豆、果樹、野菜の病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 5月下旬～6月中旬

2 予報内容

水 稻

葉いもちの発生はやや多と予想される。本田に放置された補植苗は伝染源となるので、直ちに除去する。箱施薬していない場合は6月中旬に予防粒剤を散布する。発生を認めた場合は初期の防除を徹底する。

斑点米カメムシ類の発生はやや多と予想される。生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の除草を徹底する。

大 豆

茎疫病の発生は並と予想される。発芽直後の過湿条件は発生を助長するので、排水対策を徹底する。

果 樹

ナシ黒星病の発生はやや多と予想される。降雨前の薬剤防除を徹底する。

カキ炭疽病の発生はやや多と予想される。感染しやすい徒長枝および不定芽を除去する。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

ハマキムシ類の発生は多と予想される。発生初期の防除を徹底する。

野菜・花き

アザミウマ類の発生は多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コナガの発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。